

授業科目名	応用体育剣道(秋)
科目番号	2211213
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	鍋山 隆弘
授業概要	剣道具をつけ、相手と駆け引きができる技術を身につけることを目標とし、心身の向上も目指す。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 実務経験教員 対面 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。
授業計画	剣道に関しては、剣道最高段位八段を有する元日本代表である教員が、その経験を生かして授業を実施する。 第1週 日本剣道形の歴史と礼法 第2週 日本剣道形(太刀の形1本目) 第3週 日本剣道形(太刀の形2本目) 第4週 日本剣道形(太刀の形3本目) 第5週 日本剣道形(太刀の形4本目) 第6週 日本剣道形(太刀の形5本目) 第7週 日本剣道形(太刀の形6本目) 第8週 日本剣道形(太刀の形7本目) 第9週 日本剣道形(太刀の形1本目から7本目) 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	日本剣道形の映像や資料を、予習復習に活かす。
教材・参考文献・配付資料等	剣道指導要領、剣道講習会資料
オフィスアワー等(連絡先含む)	火曜14:00~17:00 nabeyama.takahiro.gn at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とします。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ、礼法

授業科目名	応用体育サッカー(秋)
科目番号	2213253
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	小井土 正亮
授業概要	ボールそのものを扱う技術に加え、ボールを持たない時の動きを理解することで、ゲーム中の相手との駆け引きを楽しめる能力を養うことを目指す。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 実務経験教員 対面 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。  1)サッカーの特性を理解する。 2)仲間と協力して、ゲームを楽しむ。 3)サッカーを通して、心身を健康に保つ方法を学び実践する。
授業計画	サッカーの戦術、作戦の概念について理解するとともに、ボール操作の技能とボールを持たない時の動きを効果的にゲーム中に発揮できるようにする。 第1週 基礎技術1(ボールを止める、蹴る、運ぶ) 第2週 基礎技術2(ボールを止める、蹴る、運ぶ) 第3週 グループ戦術1(ボールポゼッション) 第4週 グループ戦術2(ボールポゼッション) 第5週 グループ戦術3(仲間との協力,シュート) 第6週 チーム戦術(オープン戦・オフサイドの理解) 第7週 チーム戦術1(リーグ戦) 第8週 チーム戦術2(リーグ戦) 第9週 チーム戦術3(リーグ戦) 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35% 知識・理解30% 態度・意欲35% 単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡)	まずはメール等で連絡のこと。

絡先含む)	連絡先:内2664、koido.masaaki.gu@u.tsukuba.ac.jp 水曜日10時～11時
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	できるだけトレーニングシューズ(靴底が固く、凹凸があるもの)を推奨する。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育シューティングスポーツ(秋)
科目番号	2214213
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	嵯峨 寿
授業概要	弓道の初歩的技術の習得と競技会体験などを通してスポーツの文化的、社会的、倫理的価値や精神的効果について理解を深めます。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)互いに安心して運動ができるよう、用具や自らの行動の安全性に配慮できる。 (2)弓矢のスポーツでの活用法を学び、身体を用いてそれを表現することができる。 (3)チーム戦において、仲間や相手を敬い、友愛を育む方法を修得できる。 (4)セルフジャッジに当たってフェアな判断・採点ができる。 (5)ルールを工夫改変しながら、独自の競技方法やルールなどを考案できる。
授業計画	秋学期は弓道を初学者を想定した内容にて行う。近距離(5m~10m位置)からの発射が中心となるため春学期同様「青空教室」となる。なお雨天時の学習は教室ほかでの学習となる。 第1週 弓道場での安全確保のための振る舞いや厳守事項を覚える 第2週 角見のはたらきを理解し、体得をめざす 第3週 弓道における足踏とは何かを知り、体現する 第4週 取懸(馬手の正しい使い方)を習得する 第5週 "手の内"を明かします(弓手の正しい整え方) 第6週 なぜ残身が必要か 第7週 弾(ゆかけ)の付け方を習得し、使用に慣れる 第8週 照準器のない弓道用の弓での狙いの付け方を学ぶ 第9週 実技検定を兼ね班対抗(3人一組)の競技会を行う 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	授業の進行に応じ適宜紹介する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	金曜日16時から18時 随時メールにてアポを取った上で来室ください

オフィスアワー等（連絡先含む）	体育科学系棟B504研究室 029-853-2629 saga.hitoshi.fu at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 運動が苦手、下手だと感ずる人には、高校までの体育にはない新しい種目にぜひ挑戦して下さい。初心者どうしお互いに教え合いながら学びます。春秋を通じ、弓矢を用いた競技を体験しながら、スポーツの文化的背景が理解できます。矢や弦、的などの消耗品代として教材費500円を徴収します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	なし
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育柔道(秋)
科目番号	2215233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	平岡 拓晃
授業概要	柔道の文化的特性を理解し、基本的な技術を習得して攻防ができるようにする。柔道を通じて体力を養い、他のスポーツにも応用できるバランス感覚や巧緻性などを習得する。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(その他) G科目 対面 道着の下にTシャツ着用可。
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)武道である柔道の特性を理解する。 (2)相手と協力しながら、楽しく安全に柔道を実施できる。 (3)数種類の受身の技術を体得し、その場面に応じて実践できる。
授業計画	第1週 既習技の復習 第2週 腰技、乱取、絞技 第3週 腰技、乱取、絞技 第4週 腰技、乱取、絞技 第5週 手技、乱取、関節技 第6週 手技、乱取、関節技 第7週 手技、乱取、関節技 第8週 連絡技、乱取 第9週 連絡技、乱取 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業内容に関連する資料を確認し、授業での学びをmanabaで提出する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	p.e-center@un.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	道着の下に T シャツ着用可。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	ティーチングアシスタント(TA)：1名

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ



授業科目名	応用体育ジョグ&ウォーク(秋)
科目番号	2216273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	榎本 靖士
授業概要	ウォーキングとジョギングを科学的理解を中心に、より実践的な経験と知識を習得する。ウォーキングとジョギングのスピード、時間、距離、気候、地面の変化によって環境と自分の相互関係を感じられるようになる。ウォーキングとジョギングを楽しむために必要な健康および体力の状態をマネジメントできるようになる。生活にあったウォーキングやジョギングを主体的に実践する。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 ランニングシューズが必要 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 長い距離のジョギングができる
授業計画	第1週 ウォーキングとジョギングの世界 第2週 ジョギングとウォーキングのコンディショニング 第3週 スピードを変えたウォーキングとジョギング 第4週 不整地でのジョギング 第5週 はだしのウォーキングとジョギング 第6週 ジョギングとウォーキングの補強運動 第7週 ジョギングとウォーキングの体力 第8週 ゆっくり、長いジョギング 第9週 ジョギングとウォーキングの応用 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	Manabaでの課題の提出を求める
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	水曜11時30分~12時 水曜日11:30~12:00 体育科学系A棟 A603 2669 enomoto.yasushi.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)	ランニングシューズが必要。 単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育水泳(秋)
科目番号	2217273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	角川 隆明
授業概要	本学プール施設の特性を活かし、さまざまな水辺活動に取り組む。特に秋学期は、基本技能の習得や四泳法を楽に速く泳ぐための技術を身につけるとともに、水中安全への理解を深める。
備考	男女別要素(ウェア) 男女別要素(接触) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)水中環境の特性を理解し、リラックスして抵抗の少ない姿勢を維持できる。 (2)仲間と協力しながら、楽しく水球のゲームが実践できる。 (3)楽に速く泳げる正しい泳法を実践できる。 (4)生涯スポーツとして水泳に取り組める基礎技能と理論が身についている。
授業計画	第1週 水球(基本技能、パス、ドリブル) 第2週 水球(巻き足、シュート、ポジショニング) 第3週 水球(戦術、ミニゲーム) 第4週 水中安全 第5週 救助法、着衣泳 第6週 カヤック(基本技能、操船) 第7週 カヤック(コントロール、クルーズ) 第8週 泳法練習、水中映像撮影 第9週 講義 第10週 30分間泳,授業評価 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びをmanabaでレポートする。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	連絡先:体育系B棟417(853-2643) tsunokawa.takaaki.ke@u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育ソフトボール(秋)
科目番号	2221273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	奈良 隆章
授業概要	ソフトボールの技術構造や戦術について理解を深め、作戦や状況に応じた実戦的な技能を高める。また、チーム練習やリーグ戦を通して仲間との協調性やリーダーシップを身につける。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める  (1)ソフトボールの基礎的な技術を身につけ、仲間と共に課題に挑戦できる (2)チームプレーの価値を理解し、他者との協力の中で自身の長所を發揮できる (3)体育・スポーツの意義や価値を理解できる
授業計画	第1週 オリエンテーション、ダブルプレー 第2週 内野ノック、練習試合1 第3週 ピッチング、野手間フライ、練習試合2 第4週 ピッチング、ランダウンプレー、練習試合3 第5週 ピッチング、練習試合4 第6週 内野バックホーム、リーグ戦1 第7週 打撃練習、リーグ戦2 第8週 チーム練習、リーグ戦3 第9週 講義 第10週 プレーオフ 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内の活動記録を作成し、manabaを通じて提出する。
教材・参考文献・配付資料等	1. 丸山克俊,成美堂出版,わかりやすいソフトボールのルール
オフィスアワー等(連絡先含む)	奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系A棟 405 nara.takaaki_gp@u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とします。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチング	

アシスタント (TA)	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ、ライフスキル、自己開示、他者協力

授業科目名	応用体育卓球(秋)
科目番号	2222233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	安藤 真太郎
授業概要	スポーツ活動に関する知識の深まりとともに、活動の成果を享受する能力を高める。 様々なスポーツシーンに関係する技術を理解した上で、ゲーム・技術練習共に、より多様な形態で実施し、ゲームスポーツに関する自由な発想を育てる。
備考	男女別要素(接触) 実務経験教員 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)卓球の競技特性を理解し、適切な課題解決ができる。 (2)仲間とコミュニケーションを取り、適切なスポーツ行動ができる。 (3)ラリーを続け、楽しむことができる。 (4)集団の特徴に応じて、自身の役割を考え、行動に移すことができる。 (5)卓球を通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	第1週 打球技術の理解と発展、より進んだ空間的認知をとまなうフォアハンド 第2週 距離的条件を変えたプレー、正確な空間認知と速い動作の両立 第3週 グリップワークの発展、道具を手で操作するスポーツの理解 第4週 フットワークの理解と発展、広範囲の移動 第5週 競技経験者と初級者が一緒に参加するゲームの設定法 第6週 団体戦ゲーム、個人競技における団体戦形式の在り方に関する理解 第7週 卓球を利用したスポーツレクリエーションの企画・運営について 第8週 用具条件への適応(1) 第9週 講義 第10週 用具条件への適応(2) 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で興味関心を持った内容について、自発的に学習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	特に定めない。研究室訪問の際は、事前にメール連絡をすること。 ando.shintaro.fu at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	受講にはインドア用シューズは必携。服装はスポーツウェア。 経験者の受講を妨げないが、本科目は初心者を中心とした内容となっている。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ



授業科目名	応用体育トリム運動(秋)
科目番号	2230233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	永田 真一
授業概要	本授業は体育を履修する上で心身のコンディショニングの理由から特別な支援を必要とする学生を対象に開講している。学習内容は運動習慣に繋がるような多様な楽しみ方ができるスポーツを紹介することを目的とする。受講生全体のコンディションを鑑み、内容等の変更をすることがある。
備考	1階トリム運動室 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上のものとする G科目 実務経験教員 対面 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 ----- (1)多様なアダプテッド体育種目について理解する。 (2)自己の特性を理解し、できる運動を実践する。 (3)他者の特性を理解し、協働して運動を実践する。 (4)屋内・屋外でできるスポーツの実践法を学び、実践できる。
授業計画	米国セラピューティックレクリエーションの資格及び障害のある人へのスポーツ指導経験を活かし、受講者のコンディション等に合わせた内容の授業を実施する。 第1週 多様なアダプテッド体育種目についての紹介 第2週 ペタンク・ルールと工夫 第3週 ペタンク・ゲーム 第4週 卓球バレー・ルールと工夫 第5週 卓球バレー・ゲーム 第6週 競技用車いすの操作法・スラローム競技 第7週 ウィルチェアラグビー・ルールと工夫 第8週 ウィルチェアラグビー・ゲーム 第9週 車いすバスケットボール 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	本授業は体育を履修する上で心身のコンディションから積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講前に担当教員との面談を要する。
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業当日の正午までに1週間の日常セルフケア課題を、毎回授業翌日正午までに授業での活動記録レポートをすること。また、それを期末レポートとしてまとめること。
教材・参考文献・配付	

資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp nagata.shinichi.gm@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育ニュースポーツ(秋)
科目番号	2233213
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	齊藤 武利
授業概要	既成のスポーツ競技や種目にとらわれることなく、大学生によって新たに開発されたスポーツ種目のフライングディスク競技やあまり一般的には知られていないスポーツ種目(ユニホック、グランドゴルフなど)を体験する。また、昔から受け継がれている世界各国の伝統的なスポーツ種目(インディアカ、ペタンク、綱引き)についても改めて体験してその楽しみについて再考する。さらに、これらの実践を通して、基礎体育で養った自分の体力に応じた「新たなスポーツ」を楽しむ方策などを見つけ出し、スポーツそのものに対する自分の価値観について考えてみる。
備考	実施場所や教室については、当日の天候により、決定後周知 G科目 詳細後日周知 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)ニュースポーツの体験を通じて、新たなスポーツ文化との関わりを享受できる。 (2)様々なニュースポーツの体験を通じて、スポーツの楽しみを再確認できる。 (3)仲間と協力しながら、楽しく安全にスポーツを実施できる。 (4)ニュースポーツの体験を通して、心身のリフレッシュ方策を実践できる。
授業計画	第1週 ターゲットタイプのニュースポーツ1(ボッチャなど) 第2週 ターゲットタイプのニュースポーツ2(アーチェリーなど) 第3週 道具を使ったニュースポーツ1(チャレンジ・ザ・ゲーム) 第4週 道具を使ったニュースポーツ2(スポンジテニスなど) 第5週 道具を使ったニュースポーツ3(クロッカーなど) 第6週 ボールを使ったニュースポーツ(ソフトバレーボールなど) 第7週 ボールを使ったニュースポーツ(キンボールなど) 第8週 ゲームタイプのニュースポーツ(ユニホックなど) 第9週 講義 第10週 ニュースポーツのまとめ 第11週 予備日
履修条件	運動に適したシューズ・スポーツウェア着用のこと。
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業当日の正午までに1週間の日常セルフケア課題を、毎回授業翌日正午までに授業での活動記録レポートをすること。また、それを期末レポートとしてまとめること。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連)	問い合わせ先:saito.taketoshi.fw@u.tsukuba.ac.jp

絡先含む)	(非常勤講師；金曜)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	運動するにふさわしい服装(特に、靴など)で参加すること。 単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育バスケットボール(秋)
科目番号	2234273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	守屋 志保
授業概要	バスケットボールの個人戦術（相手を打ち破る行為、相手からボールを奪う行為）、グループ戦術（カットプレイ、スクリーンプレイなど）を習得し、バスケットボールの特性を理解し、グループ戦術を活かしたゲームができるようになる。
備考	男女別要素(接触) G科目 対面 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)バスケットボールの特性を理解し、ゲームを楽しめる。 (2)チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。 (3)バスケットボールの基本的な技術、戦術を身につける。 (4)バスケットボールを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	第1週 5人制バスケットボールの特性と理解 第2週 基礎技術の習熟 第3週 基礎技術の習熟 第4週 戦術の構築、実践 第5週 戦術の構築、実践 第6週 戦術を生かしたゲーム、主体的取組の重要性 第7週 戦術を生かしたゲーム、コミュニケーションの重要性 第8週 戦術を生かしたゲーム、目標の共有 第9週 ゲームでの実践 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	バスケットボールのゲームを見て、戦略・戦術について知識を深める。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	連絡先：moriya@edogawa-u.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育ハンドボール(秋)
科目番号	2237233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	山田 永子
授業概要	ゲームの理解、グループ・チーム戦術の習得によって、チームの中での個々の役割について考え、チームスポーツを楽しむ能力を養う。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)ハンドボールのルール・戦術を理解し、適切にプレーできる。 (2)パス、キャッチ、ドリブル、シュートができる。 (3)仲間と協力しながら、審判に従い、楽しく安全にゲームを実施できる。 (4)ハンドボールを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	第1週 チーム決め、基本技能(ボールコントロール、ドリブル、パス、シュート、フェイント)、ゲーム 第2週 基本技能(ボールコントロール、ドリブル、パス、シュート、フェイント)、防御技能の習得:イン ターセプト、4対4、ゲーム 第3週 基本技能(ボールコントロール、ドリブル、パス、シュート、フェイント)、シュートテクニックパ リエーションを増やす、ゲーム 第4週 基本技能(ボールコントロール、ドリブル、パス、シュート、フェイント)、防御戦術の習得:ス イッチとピストン、ゲーム 第5週 基本技能(ボールコントロール、ドリブル、パス、シュート、フェイント)、防御技能の習得:ラ インプレーヤーに対する守り方とシュートブロック、ゲーム 第6週 基本技能(ボールコントロール、ドリブル、パス、シュート、フェイント)、ラインプレーヤーを 含む3対2、ゲーム 第7週 リーグ戦 第8週 リーグ戦 第9週 リーグ戦 第10週 2年生講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びを次週までに復習する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	yamada.eiko.ga@u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ



授業科目名	応用体育フィットネストレーニング(秋)
科目番号	2240273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	河合 季信
授業概要	健康・体力の意義について理解し、筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングを行う。
備考	G科目 実務経験教員 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1) 各種トレーニング機器の特性を理解し、適切に利用できる。 (2) 自らトレーニング計画を立て、実施結果を評価できる。 (3) フィットネス・トレーニングを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	トレーニング場にある各種トレーニング機器および大学内の環境を利用してトレーニングを行う。自重を使ったトレーニングも行うので、自宅等で継続的に実施すると良い。 スケートの日本代表監督・コーチを務めた教員が、その経験を活かして授業を実施する。 第1週 1RM測定 第2週 秋学期トレーニング計画の作成 第3週 秋学期トレーニング計画の実施(導入) 第4週 秋学期トレーニング計画の実施(維持) 第5週 秋学期トレーニング計画の中間評価と見直し 第6週 秋学期トレーニング計画の実施(修正) 第7週 秋学期トレーニング計画の実施(発展) 第8週 1RM測定 第9週 秋学期トレーニング計画の最終評価 第10週 2年生講義
履修条件	体育館用室内シューズを各自用意すること。
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	スマホアプリを使って日常の運動記録を行うとともに、授業での学びをWebフォームでレポートする。
教材・参考文献・配付資料等	配布資料
オフィスアワー等（連絡先含む）	特に設定しないので事前にメールで日程調整をしてください。 体育系B棟3F B316研究室 kawai.toshinobu.gp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育フラッグフットボール(秋)
科目番号	2241273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	松尾 博一
授業概要	日本フラッグフットボール協会公式規則に準じたゲームを通して、フラッグフットボールに関する戦術的知識や技能の実践力を高め、ゲームパフォーマンスの向上を目指す。
備考	G科目 詳細後日周知 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める ----- (1)自分の健康や体力を知り、身心の体調管理に生かすことができる (2)身体を動かす楽しさを知り、生活に運動を取り入れることができる (3)体育・スポーツの意義や価値を理解できる
授業計画	第1週 公式規則の確認とランプレイの立案 第2週 パスプレーとランプレーの作戦立案 第3週 守備の作戦立案と確認 第4週 作戦図を用いた練習 第5週 リーグ戦 1 第6週 リーグ戦 2 第7週 リーグ戦 3 第8週 リーグ戦 4 第9週 講義 第10週 リーグ戦 5、まとめ 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	フラッグフットボール及びアメリカンフットボールに関連した試合映像や映画などの作品を視聴し、フットボール競技の戦術や歴史、文化的な背景についてmanabaでレポートする。
教材・参考文献・配付資料等	日本フラッグフットボール協会のサイト <a href="http://www.japanflag.org/">http://www.japanflag.org/</a> 授業時の配布資料
オフィスアワー等（連絡先含む）	matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育野外運動(秋)
科目番号	2245233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	坂本 昭裕
授業概要	秋学期の授業では、キャンプのための技術（火おこし、野外炊事（昼食づくり）、ロープワーク、タープテント設営等）について実践的に学修し、実際にデイキャンプを体験する。日程は、11月27日（水）午前（当日は3年次生のTOEIC試験のため通常授業は休講）を予定している。したがって、授業時数については、調整する。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	5.心身の健康と人間性・倫理性に関連する 6.協働性・主体性・自律性に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 1)野外運動・キャンプの理解を深める。 2)野外運動・キャンプの技術を修得する。 3)野外運動・キャンプを通じて自然環境の価値について考えることができる。 4)野外運動・キャンプを楽しむことができる。 5)野外運動を通して課題解決の方法を学び、日常の他の事柄に生かすことができる。
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 キャンプ技術（1）ロープワーク 第3週 キャンプ技術（2）タープテント 第4週 キャンプ技術（3）火おこし 第5週 キャンプ技術（4）湯沸かし 第6週 キャンプ技術（5）グループで野外炊事のメニューを考える 第7週 Day Camp（集中 11月27日（水）8：40～11：25） 第8週 ・タープテント設営 ・野外炊事コンテスト 第9週 休 講 第10週 振り返り・授業評価 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	・キャンプのロープワーク・火おこしについて予習をする。 ・野外炊事のメニューをグループで立案する。
教材・参考文献・配付資料等	1. 日本野外教育研究会編, キャンプテキスト
オフィスアワー等（連絡先含む）	特に定めないが、事前に連絡してから訪問してください。 sakamoto.akihiro.ff at u. tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	主体的に学び、考え、行動して下さい。

むことや受講上の注意 点等)	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, 調べ学習, 課題解決

授業科目名	応用体育リフレッシュ体操(秋)
科目番号	2248273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 金2
担当教員	狩野 莉奈
授業概要	心地よい運動や仲間との交流を通して、スポーツを楽しむ豊かな心と知識を養う。また、乗ることのできる「Gボール」や大きな鉄の輪の中に入って回転する「ラート」運動など、非日常的な運動に触れることで、心身をリフレッシュする。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協調性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)Gボールの特性を理解し、適切に利用できる。 (2)ラート運動の側方回転ができる。(1回転/補助の有無は問わない) (3)仲間と協力しながら、楽しく安全にペア運動を実施できる。 (4)体操を通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	第1週 ストレッチ・体ほぐし 第2週 Gボールの特性・用具に慣れる 第3週 Gボール・バランス運動(自分のからだの重心探し) 第4週 Gボール・バウンド運動 第5週 Gボール・ローリング運動 第6週 ラート運動の特性・用具に慣れる 第7週 ラート・基本回転1 第8週 ラート・基本回転2 第9週 ラート・側方回転 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	連絡先:kano.rina.kn@u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観